

豊 議 議 第 5 5 5 号  
令和7年（2025年）12月1日

豊中市議会議長  
井 本 博 一 様

総務常任委員会

委員長	大野 妙子
副委員長	山本 一徳
委員	井上 弘美
委員	大田 康治
委員	坂口 雄太
委員	酒井 哲也
委員	花井 慶太
委員	神原 宏一郎
委員	井本 博一

総務常任委員会視察調査報告書

次のとおり、視察調査の結果を報告致します。

記

1. 日 時 ○ 令和7年7月31日（木）～8月1日（金）
2. 調査都市及び調査内容 ○ 群馬県  
・デジタルクリエイティブに特化した若年人材育成  
拠点「<sup>つくるん</sup>tsukurun」について  
○ 東京都千代田区  
・生成AI活用について

3. 調査結果  
の概要及び  
意見

○ 別 紙

## 調査結果の概要及び意見

## I. デジタルクリエイティブに特化した若年人材育成拠点「tsukurun」について

## (1) 視察の目的

群馬県の知事が、近未来におけるあるべき姿の1つとして、世界で戦えるデジタルクリエイティブ人材を輩出しようとの狙いから、2022年3月に「tsukurun」という施設をつくられた。これは、新たな価値を創出したり、発信したりする人材や企業が県内で育ち、国内外から集積していくことを目指している。そのために、この施設は最先端のデジタル機材やソフトウェアを備えており、群馬県に在住、または在学の小中高生は全て無料で使うことができ、子どもたちに大変好評であるとのことである。また様々なイベントや作品コンテストなども行っておられ、そこからプログラミングの全国大会で優勝するような人材も誕生しているとのことでしたので、今回の視察では、公がデジタルクリエイティブに特化した人材育成に取り組む意義や目的、若者人材に注力されている「tsukurun」の施設の現場に行き学ばせていただき、豊中市でデジタルスキルを備えた、新たな価値を創造する人材の育成を進めるためにはどのような課題があるのかを抽出するとともに今後の施策充実の参考にしたい。

## (2) 概要・取組内容

- ①事業予算・財源について、約3000万円台後半で運営しており、「新しい地方経済・生活環境創生交付金」を活用している。
- ②デジタルクリエイティブに初めてチャレンジする初心者から中級者になるまでのステップアップをサポートする「tsukurunクリエイティブクエスト」を実施しているほか、専門知識をもったスタッフが常駐し、わからないことがあればその場で聞くことのできる環境を整えている。
- ③人員体制についても10人程度のティーチングスタッフが前橋の「tsukurun」運営に携わっている。
- ④第一線で活躍するクリエイターを招いた特別講演を月1回程度実施したり、県立高校3校に「tsukurunサテライト」を設置したりしているほか、「出張tsukurun」の取組みの中で県内小中高校や公民館に出張している。

### (3) 各委員の所感

○ デジタルスキルを備えた、新たな価値を生むスキルとしてクリエイティブに着目し特にこれからの未来を担う若者に特化されていることは非常に興味深く、この施設が子どもたちの「居場所」になっていること、また利用者が全国プログラミング大会で日本一となるなど、着実に結果を出されているとのこと。今後「<sup>つくるん</sup>tsukurun」によるデジタルクリエイティブ人材育成の機会をどう拡げていくのか、環境整備の取組みが重要と感じた。

○ 群馬県独自で小中高校生が無料でデジタル技術に触れることができる環境が作られており、通常では経験できないことが経験できることで、子どもたちの才能を伸ばす場をつくれていることはいい実践の一つだと感じました。豊中市においても子どもたちが様々な体験をできる機会を、デジタルを活用してどう作るかという点で学びになりました。

○ デジタルに特化した創造的な学びの場を導入することで、子どもたちが自らの可能性を広げ、将来的には地元で新しい産業や価値を生み出す人材へと成長することを期待しての取組みと感じた。また、学校に行きづらい子の「居場所」として、得意分野を伸ばし個性を発揮した事例もあった。デジタルに限らず「好き」を伸ばせる居場所、自分らしくいられる空間として、テーマを絞り環境を整えた拠点づくりは本市でも検討する価値があると思う。

○ クリエイティブ人材は日本国だけでなく、今後は益々世界中で需要が増えるものと思われます。ただ強く感じたのは、やはり基礎学力、特に語学力がある程度あり、その上でこの部門の専門知識があれば世界で渡りあえる人材となることを強く感じました。特に小学校・中学校世代の利用が多いとのことなので、今後は高校生世代にも広く、周知していければいいのかなと思います。

○ 本へのアクセスを誰でも容易にするためのインフラとして図書館の普及が進んだように、群馬県では、小中高生のデジタル環境の活用を容易に可能とするためのインフラとして「<sup>つくるん</sup>tsukurun」の普及が進められている。デジタルネイティブ世代の可能性を広げる選択肢のひとつとして興味深いものであったが、一方で、社会で求められているデジタル人材はクリエイティブに限られたものではなく、幅広い需要との整合を今後どのように図

っていくかは課題であると感じた。

○ 県知事の肝いりの政策ということで、クリエイティブな人材の育成拠点としての取組みだけではなく、高校にも展開するなどさまざまな企画と人材育成に取り組んでいることが凄いいし、また地域の資源を活用した映画やドラマ・CMなどのロケーションとしての地域の活用にも力を入れていることから、まちのコンセプトが明確になっていて企業誘致や人材確保、更には若い世代の定住にもつながっているということで大変に勉強になった。

○ 近時は生成A I 活用による画像や映像等の制作も増えてきており、事業においてもそのことに対応もしているが、基礎となるクリエイティブマインドを育むことを大切にしたいとのことであり、市で取り組む際には基本に据えるべき考えであると感じた。また、サテライトとして桐生市も取り組みを始めたとのこと、同市では学校の授業のある時間帯は高齢者のデジタルデバインド解消のための事業に活用しており、我が市において事業に取り組むとすれば施設の有効活用の観点から参考にすべきである。

○ 子どもたちにデジタル技術や媒体に興味関心を抱かせたり、ノウハウを楽しく教えることができる事業の担い手の確保が課題と感じる一方、若い世代の興味、関心、好奇心を高めると共に、才能開花やスキルアップの可能性が広がる取組みであり、大いに期待が膨らむ事業と感じた。

○ 小中高生のデジタルクリエイティブ拠点として、サテライト施設やアウトリーチ型の取組みも拡充されており、県を挙げて新しい産業としての取組みを進めておられた。この取組みは、人材育成の観点だけでなく、子どもたちが集いその中で体験しながらお互いにコミュニケーションもはかれる施設として居場所機能も含めたこれからの時代にあった取組みであると感じた。

## II. 生成A I 活用について

### (1) 視察の目的

生成A I については、文章作成や企画立案、情報収集等の職員の業務負担軽減や問い合わせ対応といった、市民へのサービスの向上など現在自治体においてもその可能性が大きく注目されている。一方で必ずしも正確な

情報とは限らないことや、個人情報や著作権侵害といった懸念もある中、東京都千代田区ではいち早く活用検証トライアルを実施し、業務効率化や業務高度化の効果があることを確認し、利用ルールや効果的な活用方法をまとめた活用ガイドラインを策定（活用ガイドラインは随時アップデート）し様々な場面で活用するなど先進的に取り組んでおられる。豊中市も現在、生成A I サービスについては導入が進んでおり、今後豊中市においてもさらに生成A I を活用（導入）するにはどのような課題があるのか、また、重要情報の取り扱いについてもしっかりガイドラインを整備し、施策充実のための参考にしたい。

## (2) 概要・取組内容

- ①業務が拡大・多様化している一方で、人口減少などにより労働力の確保が難しくなっている。そのためにはB P Rの実施も含め職員が行うべき業務を見極めながらA Iなどのデジタル技術を積極的に活用していく必要性を感じ、生成A Iについて、令和5年8月からトライアルを経て活用方針や効果的な活用方法をガイドラインとしてまとめる。区のD X戦略にあるように前例にとらわれずにチャレンジし変革しつなげいく姿勢を大切にしている。
- ②活用に向けた検証のため、各課に1名配置している「D Xサポーターズ」を中心にトライアルを実施。またプロジェクトチームを設置してワークショップを開催し、どのような業務で活用できるのか、どのようなプロンプトの入力が効果的なのか検討。
- ③トライアルの概要として、一つ目に問い合わせ対応のA Iチャットボット、二つ目に文章要約や検索、アイデア出しなど幅広く活用と大きく2つのトライアルを実施し活用可能性及びガイドライン策定に向けて検証。トライアルは機密情報等が漏洩しない環境でかつ運用ルールも定めた上で実施。
- ④利用上ルール、効果的な活用方法、機能ごとのプロンプトなどしっかり検証し、A Iを取り巻く状況、動向を注視しつつ、本ガイドラインの見直しも含め、生成A I導入後も社会情勢等を踏まえるとともに継続的に効果等を検証し更なる活用につなげていく。まずは、行政内部からの活用ではあるが、例えば区民の24時間自動問い合わせ対応や単に質問・回答だけでなく、行政情報等を活用した業務効率化や高度化、サービス向上等の取組みをセキュリティ面に注意しながら検討する。また外部環境の変化も捉えつつ、拡張機能であるプラグインサービスなどの活用や、文章以外の生成A Iなどさらなる活用可能性も検討される。

### (3) 各委員の所感

○ 生成A Iの利点を市民へどう還元していくのか、市民への理解や周知が大事だと感じた。また、生成A Iが必ずしも正しい答えや市民が求めているものとは限らないという共通認識を拡げなければならない。また、行政(職員)のリテラシーを高める研修も必要と感じた。特に、個人情報や重要情報などセキュリティ上のリスクを確認した上で利用ルールや利用方法などしっかり盛り込んだマニュアルやガイドラインの充実は必要(その都度アップデートしていく)である。今後本市が施策を進めるにあたっての参考にさせて頂きたい。

○ 千代田区では、今後すべての事務職員に生成A Iのライセンスを導入し、業務効率化を進めているということでした。生成A Iを使うことで、どのように業務が効率化されるのかが具体的に分かったのは勉強になりました。また、生成A Iを利用しやすいような業務改革、上司の意識改革が必要であるというお話もあり、技術が新たになれば、それに合わせた働き方をつくっていくというソフト面の改善が重要であると学ぶことができました。

○ 自治体職員による生成A I活用は、業務効率の向上や住民サービスの質の改善、人材不足の補完、ノウハウの共有等多くのメリットがある一方で、情報漏洩のリスクや誤情報の生成、職員間のスキル格差、住民とのコミュニケーションの希薄化といった懸念もある。導入にあたっては適切な運用ルールと職員の理解促進が不可欠であり、慎重な対応が必要と思われるが、多くのメリットを思えば本市でも前向きに検討すべきと考える。

○ 時には自身の仕事の仕方や方法を変える必要性も出てくることのあるのかなと感じました。自分の業務にどう活かせるのか考え、活用していかなければならないのではと思います。また、市民に向けても具体的に生成A Iを生かしていくための施策もしていかなければならないと思いました。そして、最終的にはやはりファクトチェックは人が行わなければならないのではと思います。

○ 生成A Iの急速な発展を前に、積極的な活用に二の足を踏む自治体が多い中で、千代田区の全庁的な導入は目を見張るものがある。職員の人時単価と生成A I活用による削減された業務時間を掛け合わせることで費用対効果を定量的に算出していることも有用な取組みであると感じた。

(別紙)

○ AIの活用で職員の負担軽減に大きな効果があることがわかった。その負担軽減した分、市民サービスに生かす取り組みができるということについての考えを聞いたが、まさにそこが一番大事な観点で、今後どのように価値的に仕事ができるかという考え方にまさに移行していこうとしているということで説明をもらった。本市においてもこの点を今後しっかりと議論をし、方向性を考えていかなければならないと感じた。

○ 区が生成AIの活用により効果が大きいと現時点で実感しているのは、会議録の作成、書類や電子メール等の文案出しといったところのようです。今後はさらに広範囲に利用されていくものと思われます。市においてもより業務の効率化、精緻化を図るべく、リスクには配慮しつつも生成AIの積極的利用を進めるため指針や人員体制等の環境整備が必要と感じた。

○ 自治体での生成AIの導入、活用は、職員にとっては業務効率化による業務負担の軽減、市民にとっては市民サービスの利便性向上というメリットがあることを再認識した。一方で、情報漏洩や権利侵害のリスクやハルシネーション(AIが事実に基づかない情報を生成すること)のリスクなど、課題があることも十分に理解し、対処法の検討や対策の構築の重要性も痛感した。

○ 行政の業務が増えていく中、またこれから人口減少社会が進む中で人材確保が難しくなることが想定される。ファクトチェックや個人情報等の取り扱いに注意しながら生成AIを活用することは、業務の効率化を進める上で有効であり、これからの行政課題に向かって我々も考え方を変えていかなければいけないと感じた。